

科目名	フレッシュャーズセミナー1			ナンバリング	GEN711	授業形態	演習
対象学年	1	開講時期	集中(前期)	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	菊池真弓、玉懸元、金世煥、高島翠、松本麻子				

授業の概要	大学生活を円滑にスタートするために、大学で必要となる基本的なアカデミックスキルの獲得と豊かな人格の形成を目的とする。アクティブラーニング形式の個人ワークとグループワークによって主体的な学びを促し、適宜フィードバックを行う。						
到達目標	1. 高校と大学の違いを理解し、自律的な学習習慣・マナー・自己管理を身に付けることができる。 2. 大学で学ぶための基本的なアカデミックスキル(情報収集の仕方・レポートの書き方など)を身に付けることができる。 3. グループワーク等を通して、大学内に豊かな人間関係を形成することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	時間外でのグループワークや幅広い情報収集が求められるため、主体的な態度で臨むことが望ましい。 ポートフォリオを用いて振り返りを行うこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・遅刻、退席はほとんどなく、居眠りや私語はほとんど見られない。発言や質問はそれほど多くない。 ・リフレクションは規定の文字数を超えており、誤字が少ない。授業内容を踏まえた記述がされているが、やや表面的である。 ・グループワークでは、グループ内での発言や傾聴の姿勢は見られ、成果に向けて取り組んでいる。与えられた自分の役割を果たしている。 ・プレゼンテーションでは、話し方やアイコンタクトを意識しているが、主張にやや論理性が不足している。 ・アカデミックライティングでは、課題の条件が満たされている。背景、問い、目的の記述はされているが、やや曖昧である。	・遅刻、退席はなく、居眠りや私語をしていない。積極的に発言や質問をしている。 ・リフレクションは、規定の文字数を超えており、誤字がない。授業意図を十分理解し、自分なりの考察を具体的に記述している。 ・グループワークでは、よりよい成果に向け、新たな視点を提示する、他のメンバーへ働きかけを行うなど、与えられた以上の役割を果たしている。 ・プレゼンテーションでは、聴き手を意識した話し方、アイコンタクトがされている。内容が整理されており、根拠のある主張ができている。 ・アカデミックライティングでは、課題の条件が満たされ、主張に根拠があり論理的な説明ができている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業内課題	○	○	○	○	○		50%
授業外個人課題	○	○	○	○	○		30%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	課題については、提出物へコメント記入後返却、またはmanab@IMUを使用するなど、個別にフィードバックを行う。グループワークについては、授業中に各グループごとにフィードバックを行う。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	スタートアップ研修・1	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第2回	スタートアップ研修・2	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第3回	スタートアップ研修・3	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第4回	スタートアップ研修・4	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第5回	スタートアップ研修・5	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第6回	スタートアップ研修・6	グループワークを通して、協同の重要性を学ぶ。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第7回	アセスメント	PROGテスト(ジェネリックスキルの測定)を実施する。結果のフィードバックを第28回にて行う。	2019年度受講者は第8回から受講すること。
	第8回	プレアカデミックスキル・1	自分を相手に理解してもらえるように、自己紹介を行う。	
	第9回	プレアカデミックスキル・2	大学における主体的な学び方とノートテイキングの手法を、ブレインストーミングを用いて学ぶ。	
	第10回	プレアカデミックスキル・3	大学生活の事例から、ハラスメントとは何か、ディスカッションを通じて考える。	
	第11回	プレアカデミックスキル・4	「聴く」と「聞く」の違いについて体験を通して学ぶ。	
	第12回	プレアカデミックスキル・5	「クローズド質問」と「オープン質問」の二種類の質問について、それぞれの利点と欠点を考える。	
	第13回	学内環境を知る・1	本学および教養学部が置かれている状況についての概要を知る。	
	第14回	学内環境を知る・2	収集した情報を整理し、プレゼンテーションの準備を行う。	
	第15回	学内環境を知る・3	プレゼンテーションを実施し、評価を行う。	
	試験	試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	学内環境を知る・4	プレゼンテーションを実施し、評価を行う。	
	第17回	アカデミックスキル I ー1	インターネットを使った情報収集の手法について学ぶ。	
	第18回	アカデミックスキル I ー2	インターネットを使った情報収集の手法について学ぶ。	
	第19回	アカデミックスキル I ー3	新聞について学び、記事から情報を収集する方法を身に付ける。	
	第20回	アカデミックスキル I ー4	図書館の使い方と文献検索や情報収集の手法を学ぶ。	
	第21回	アカデミックスキル I ー5	アカデミックライティングの作法(引用と問題提起)を学ぶ。	
	第22回	アカデミックスキル I ー6	アカデミックライティングの作法(引用と問題提起)を学ぶ。	
	第23回	アカデミックスキル I ー7	本の種類と引用の方法について学ぶ。 ビブリオバトルを実施し、発表内容について質疑応答と評価を行う。	
	第24回	アカデミックスキル I ー8	ビブリオバトルを実施し、発表内容について質疑応答と評価を行う。	
	第25回	アカデミックスキル I ー9	ビブリオバトルを実施し、発表内容について質疑応答と評価を行う。	
	第26回	アカデミックスキル I ー10	アカデミックライティングの提出課題へのフィードバックを行い、引用と問題提起の手法について復習する。	
	第27回	アカデミックスキル I ー11	アカデミックライティングの提出課題へのフィードバックを行い、引用と問題提起の手法について復習する。	
	第28回	アカデミックスキル I ー12	アカデミックライティングの提出課題へのフィードバックを行い、引用と問題提起の手法について復習する。	
	第29回	アカデミックスキル I ー13	アカデミックライティングの提出課題へのフィードバックを行い、引用と問題提起の手法について復習する。	
	第30回	前期の振り返り	前期学生生活の振り返りをおこない、セルフグロースシートを使用して大学生生活の目標設定を行う。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		講義は集中授業とする。ただし、土曜日に行う場合もあるため注意すること。		
授業外学習の指示		授業で学んだ内容を整理し、まとめておく。 課題(個人、グループ)に関する情報収集を行う。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	必要に応じて資料の配付を行う。
参考書	特になし
参考URLなど	特になし
その他	授業ではタブレットを使用するため、毎回持参すること。 配付資料・ワークシート収集用ファイル(ポートフォリオ)も毎回持参すること。 資料の配付、課題の提出、連絡事項等に、manab@IMUを使用する場合がある。

フレッシャーズセミナー1

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	授業態度	遅刻、退席はなく、居眠りや私語をしていない。積極的に発言や質問をしている。	遅刻、退席はほとんどなく、居眠りや私語はほとんど見られない。発言や質問はそれほど多くない。	遅刻、退席、居眠りや私語が多い。
2	リフレクション	規定の文字数を超えており、誤字がない。授業意図を十分理解し、得られた学びや自分なりの考察を具体的に記述している。	規定の文字数を超えており、誤字が少ない。授業意図を理解し、内容を踏まえた記述がなされているが、やや表面的である。	提出がない、もしくは規定の文字数に達していない。課題と記述内容が合致していない。
3	グループワーク	よりよい成果に向け、新たな視点を提示するなど、積極的に取り組んでいる。他のメンバーへの働きかけを行い、与えられた以上の役割を果たしている。	グループ内での発言や傾聴の姿勢は見られ、成果に向けて取り組んでいる。与えられた自分の役割を果たしている。	グループ活動に参加していない。または発言をしない、他人の意見を聞かないなど、メンバーとコミュニケーションがとれていない。
4	プレゼンテーション	聴き手を意識した話し方や、アイコンタクトの取り方に工夫が見られる。内容の整理がされており、根拠のある主張ができています。	話し方や、アイコンタクトの取り方を意識している。内容は伝わるが、主張にやや論理性が不足している。	発表ができない。またはずっと原稿を見ているなど、聴き手を意識した話し方になっておらず、話の内容が伝わらない。
5	アカデミックライティング	課題の条件（字数、テーマ、体裁など）が満たされている。背景、問い、目的が明確に記述されており、主張に根拠があり論理的に説明されている。	課題の条件（字数、テーマ、体裁など）が満たされている。背景、問い、目的の記述は意識されているが、やや曖昧である。	提出がない、もしくは課題の条件（字数、テーマ、体裁など）を満たしていない。
6				
7				